

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292700042		
法人名	医療法人社団 創造会		
事業所名	グループホーム寿		
所在地	千葉県我孫子市寿2-16-5		
自己評価作成日	平成23年1月28日	評価結果市町村受理日	平成23年6月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・認知症の状態になっても、家族、職員、地域の方々の協力のもと、本人の望まれる生活を支援しています。</p> <p>・地域行事には積極的に参加しています。(豆まき・地元祭り・福祉フェスティバルなど)</p> <p>・外食会(入居者様のご希望のお店)</p> <p>・個々の入居者に合わせたアクティビティを実施しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム寿」は、デイサービス・併設の小規模多機能ホームとの日頃の行き来や合同行事等の連携を図る事により、入居者の希望に合わせた幅広いサービスの提供が可能となっている。日々の会議や管理者と職員の連絡ノートを活用し、職員の意見・提案を確認する機会を多く設け、全職員で入居者を支援する体制が構築されている。また、自治会員によるボランティアの紹介・保育園児との世代間交流・消防訓練等、様々な取り組みを通じて、地域との関わり・交流を深めながら、入居者の生活の活性化に繋げている。</p>

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成23年2月25日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>法人理念、事業所理念を共有し、理念の実践に向かい日々取り組んでいる。</p>	<p>「地域の中で交流を深め 暮らしの中で好奇心と意欲的を持ち続けられるような 入居者本位のサービス提供」を主眼とした理念を掲げている。理念を明文化し、施設内に掲示していると共に、会議・新人研修等を通じて理念の共有に努めている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治会に入会、回覧板や運営推進会議を通し、情報の交換や地域行事に参加し交流している。消防訓練にも参加協力していただいている。地元保育園との世代間交流をしている。</p>	<p>運営理念に地域との交流を掲げており、自治会に加入し、地域のお祭りや行事等に積極的に参加している。また、地域のために、施設を開放し、見学・相談等を随時行っており、施設の理解促進にも努めている。自治会住民の紹介によるボランティア受け入れや地域住民に車椅子使用のためのアドバイス等を実施し、地域との関わり・交流を深めている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の方々の相談窓口として相談に応じている。車椅子の操作方法を地域住民の方に説明、指導した。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議にて、利用状況や取り組み内容等を話し合い、サービス向上に努めている。地域の情報交換の場になっている。</p>	<p>市職員・在宅支援センター職員・民生員・自治会員・入居者者家族・法人代表・施設職員を構成員として2か月に1回、併設の小規模多機能ホームと合同で、運営推進会議を開催している。会議では、施設活動報告や質疑応答を行い、施設の理解促進に努めている。また、意見・情報交換を行ない、地域の要望を確認し、地域貢献や施設活動の実施・工夫に活用している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスの利用相談やサービス内容について担当者や相談し、より良いサービスを提供できるよう取り組んでいます。他、市と共催での介護教室開催に向け、進行しています。	日頃から市に対し、報告や相談を随時行っており、密な連携が図られている。また、市と意見交換・情報交換を行ない、地域福祉の活性化に繋げると共に、相互にサービスの質の向上に取り組む体制が構築されている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止・権利擁護研修受講職員が、職員に対し、勉強会を開催した。月1回のケア会議や申し送りにて身体拘束をしない本人の望む生活を送れるよう話し合い、ケアに取り組んでいる。	身体拘束排除の為に施設方針が明文化され、マニュアルも整備されていると共に、研修や会議を実施しており、職員全員が意義を理解しており、身体拘束排除に向け取り組んでいる。日中は入居者の出入りは自由となっており、自分らしい生活を支援している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは何か勉強会を開催した。マニュアルがあり、いつでも見れるようにすると共に、毎月のケア会議にて虐待がないか確認し防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については図書や資料で各自、自己学習している。必要な利用者には説明し、活用できるよう支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際は不安や疑問点を尋ね、分かりやすく説明しご理解いただいている。改定の際は家族会を開催し、内容を説明し同意をいただくかたちをとっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人様からの要望や希望を職員が聞く機会を常にもつこと。面会時等にご入居様の状態を家族に報告。心身の変化や嗜好品などを本人・家族と話し合い、安心した生活を送れるよう支援しています。	意見箱や苦情・相談窓口が設置されている共に、家族の面会時・電話連絡時・運営推進会議等で意見を確認している。挙がった意見・要望においては、管理者と職員間で活用している連絡ノートや申し送り表等にて周知・検討し、サービスの質の向上・適切な改善に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ごとに創造会年報の回覧。月1回の全体会議での意見や提案。管理者と職員との連絡ノートを活用し、事業所理念に向けサービスを提供している。	定期的に会議を開催し、職員の意見を把握している。管理者と職員間の連絡ノートを活用し、意見・要望を確認する機会を設けている。また、管理者が職員とコミュニケーションを取り、意見・提案が出し易い環境作りをしている。職員一人ひとりが目標管理シートを作成し、それぞれが目標を掲げており、自主性を尊重した、向上意欲を促す職場環境の整備に取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	創造会全体で、生きがい・働きがいのある職場を目指し、新人事制度導入。各自、自己目標を設定し上司とともに目標に向かい実践しています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己目標を設定。個々の職員に合わせたOJTやOFFJT、自己啓発、内部研修を実施しスキルアップを目指している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	我孫子市介護サービス事業者連絡協議会開催の研修や職員交流会、同業者との相談などを行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時は、本人・家族等の生活歴や意向を出来る限り情報を収集し、本人の希望する生活の実現に向け充分時間をかけ話し合っています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに、サービス利用の流れや経済面・精神面等の問題を含めた相談をおこない、安心して利用できるような心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が望む生活が出来るよう、フォーマル、インフォーマルなサービス等必要な支援を見極め、ケアマネジメントし実践しています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事作りや自室・共同部分の掃除、整理、整頓などを共におこない、役割や生きがいをもった生活が送れるような関係作りを継続している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来やすい施設環境を整え、本人、家族、兄弟、職員との交流を増やし、チームで本人を支えあう関係作りを日々行っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、職員、地域の方々の協力のもと、馴染みの人や場所、思いなどが途切れないよう個別支援やアクティビティ計画をし実践しています。	入居者の希望や状況に応じて、地域の神社や公園等、馴染みの場所への外出を支援している。家族との外出や外泊等も自由になっており、家族間の関係継続にも配慮している。また、地域ボランティアの受け入れにより、入居者の趣味や特技を活かした支援も行われている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立しないようアクティビティの提供、より良い人間関係が続くよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を継続し、必要に応じて相談や支援している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	相談受付時や利用中も、本人の意向や希望を踏まえた生活が送れるよう情報を収集し、個別ケアを提供している。	契約時に本人・家族から生活歴・身体状況・意向等を聴取し、記録している。入居後は、日々の支援の中で、本人・家族から意向等を確認していると共に、日常の会話や観察結果を記録し、情報の把握に努めており、全職員が会議等にて周知・確認し、その人らしい生活の支援に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談時や利用開始時に生活歴や施設に望むこと、趣味や嗜好等を出来るだけ本人・家族に情報収集しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族から生後から現在までの生活歴や既往歴、有する能力等の情報を職員共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望や意向を取り入れ、本人が望む暮らしが送れるよう、各関係者と話し合い、介護計画を作成、毎月ケア会議で継続が見直しを検討している。	本人・家族の意向をもとに、会議にて意見交換を行ない、本人本位で検討し、介護計画を作成している。定期的に評価を行ない、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。また、家族の意向を随時確認しており、より意向に沿った介護計画の作成に努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったケアの実践を個別に記録し、情報を職員間で共有し、本人、家族の要望、意向に沿ったケアの提供、介護計画の見直しをおこなっている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能性を生かし、個々の利用者に合わせてサービスの提供や紹介など、柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の協力のもと、ボランティアの方とアクティビティをおこなったり、世代間交流をもちながら豊かな生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診等の同行、または通院が困難な利用者・家族には往診医との日程調整、本人の代弁など安心した生活が送れるよう支援している。	希望するかかりつけ医の受診が可能になっている。希望に応じて職員が付き添いをしており、医師と情報交換をし、適切な受診の支援が行なわれている。看護職員の指示により、適切な健康管理・服薬管理が行なわれていると共に、定期的に往診が実施され適切な医療支援が行われている。協力病院とは緊急時に備えた24時間体制の連携が図られる協力体制が構築させている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が日常の健康管理や医療相談、医療機関活用の支援をしている。介護職に対し医療の勉強会を開催している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院関係者との情報提供や相談に努めている。退院後の利用について病院関係者や家族とサービス提供の留意点や福祉用具の使用等について相談している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時や利用中にも本人や家族、主治医との話し合いを定期的にもち、重度化した場合や終末期のケアについて話しあい、各関係機関と情報を共有しながら本人本位の支援しています。	重度化や終末期において施設としての指針が明文化されており、家族の希望に応じて、施設方針や対応方法を説明し、同意書を交わしている。協力病院との協力体制が構築されており、家族・医師・看護師・職員が連携を図り、事業所として入居者・家族の意向に沿った出来る限りの支援を行えるよう体制を整えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は施設内外の研修を実施し、スキルアップを計っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の職員連絡網、法人連絡網の活用、地元自治会協力者との合同訓練を年2回実施し、災害に対する訓練を実施している。	災害時・緊急時のマニュアルや役割分担を整備していると共に、火災報知器・通報装置・スプリンクラー等の設備を備え付けている。年2回、消防署の協力のもと、併設の小規模多機能ホームと合同で避難訓練を実施している。避難訓練には、地域住民の参加を呼びかけ、災害・緊急時の協力体制作りにも努めている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをしている。また法人で個人情報保護法研修を実施しており、個人情報の取り扱いには充分注意し、日々の業務に取り組んでいる。	プライバシー保護のマニュアルを整備すると共に、研修・会議等で職員に個人を尊重した接遇に努めている。日々の業務の中で常に研修を行い、職員にプライバシーの配慮を指導している。また、入居者本位の理念に即した、柔軟な支援を行っている。個人情報保護に関する方針を掲げ、研修も実施されており、個人情報の取扱に配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望や希望を言い出しやすいよう1対1で話せる場を作ったり、自己決定が出来るよう選択式で選んでいただいたり、言いやすい環境を整えている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの望む暮らしが送れるよう、個々のペースや生活習慣で支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容や本人と一緒に衣類や化粧品を買いに行ったり、居室に鏡台を置くなどおしゃれができるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好をアンケートや利用者から聞き取りをおこない献立を作成している。入居者と職員で調理し、美味しさ・楽しみを共有しながら食事をいただきお片付けを実施、楽しい時間を過ごしている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備等を共同で行っている。献立においては、職員が入居者の希望を確認し、作成しており、嗜好や能力に合せた食事提供が行なわれている。また、特別食・外食会・手作りおやつの実施等を企画・実施しており、旬や季節を取り入れた食に対する様々な楽しみを支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好や疾患に合わせ、量や栄養バランス、水分量が確保できるようチェックシートに記入している。食事制限のある方にはかかりつけ医に相談・報告し指示をもらい食事・水分摂取している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯消毒や訪問歯科医による歯石除去・ブラッシング指導も実施している。毎食後、残存機能をいかした口腔ケアを実施している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、食事や適度な運動などを取り入れ気持ちよく排泄できるよう支援しています。	排泄チェック表を活用しながら一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切な声掛けやトイレ誘導を行い、パットやオムツの使用頻度を減らすケアを実践している。また、食事の工夫・体操や運動を取り入れて、自然な排泄習慣の継続を図っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた飲食物の工夫(牛乳、食物繊維、寒天など)や毎日の体操、十分な睡眠がとれるよう支援し、快便・便秘予防にとりくんでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望の曜日や時間帯、湯温、入浴時間になるべく合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日実施されており、利用者の希望・体調を確認しながら、柔軟な入浴支援を行っている。また、必要に応じて清拭・部分浴を実施し、清潔保持に努めている。転倒防止マットや呼び出しブザーが設置されており、利用者の安全確保がなされている。脱衣所にはトイレが併設されており、プライバシーの配慮がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>その時に見たいテレビ番組を点けてあげたり、その人の生活習慣に合わせ安心して気持ちよく休息できるよう支援している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個々の利用者の既往歴等を把握し、病気の特徴・症状・予防・薬の目的・副作用等を内部研修で学び、状態の変化を見逃さないように常に観察している。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個々の入居者に合わせたアクティビティ、趣味、外出等の気分転換の実施。日常生活の中では食器拭きや洗濯たたみなど役割をもった生活を送っています。</p>		
49	(18)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>一人ひとりの希望を把握し、職員や家族の協力のもと、外食に行ったり、季節感を感じる場所にドライブに行ったり、地域行事にも参加している。</p>	<p>入居者の希望・体調・天候等に応じて散歩・買い物・ドライブ等を日々実施している。定期的に外食会や外出会を計画・実践し、戸外での楽しみを支援している。また、外出行事に家族参加の機会も設けており、入居者・家族・職員が楽しみを共有できるよう工夫している。併設の小規模多機能ホームの利用者や地域のボランティアの人達と交流が行なわれており、入居者の生活の活性化に繋がっている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>職員や家族の協力のもと、おやつや化粧品を買いに行ったり、外食に行く支援をしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族と電話をしたり、年賀状など手紙のやり取りができるよう支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に居るよう生活感や季節感を取り入れて居心地のよい空間作りや、においや温度、湿度など不快がないような環境にしている。	施設内は全面バリアフリーとなっており、玄関・廊下・トイレ等は十分な介助スペースが確保されており、安全面に配慮している。施設内は明るく開放的で、季節飾りを行ない、温かみのある施設造りがなされている。施設内の随所に行事写真や入居者の作品が展示されており、入居者と職員が楽しみを共有できるよう工夫されている。併設の小規模多機能ホームと日頃の行き来や合同行事等にて、密に交流が行なわれ、入居者の良い刺激となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居同士でアクティビティをしたり、一人で静かに居られるような居場所作りを提供しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのもの、気に入っている衣類、テレビや鏡台を活かして、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	入居者の希望に応じて馴染みの家具等を持ち込む事が可能になっており、居心地良く生活できるよう配慮されている。また、入居者の希望により畳を敷く事も可能で、寝具も自由に選択できるようになっており、生活歴に合わせた居室作りが行われている。全居室にエアコン・換気扇・加湿器が設置されており、適切な空調管理がなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ハサミや針などは自由に使えるよう利用者の届きやすい位置(引き出し)に入れている。		